



# 抑制作における生理障害について

## ☆裂果☆

JA全農ちば  
営農支援部

### 1.生理障害

抑制作では高温、強日射によりさまざまな生理障害が発生します。  
原因を把握し対策することにより収穫量増、収穫時廃棄削減、等階級の向上を目指しましょう。

### 2.裂果

- (1) **放射状裂果** 土壌内水分の急激な変化（土壌が乾燥していた後に急に多量に灌水）により裂果します。また、行き場のない水分が果実に多量に流れた時にも裂果の原因になります。

**対策①**乾燥土壌→一度に多量灌水⇒浸透圧で裂果します。

第3花房開花以降は晴天時1週間に2回の多量灌水よりも少量でもこまめな灌水が有効（樹勢維持にも◎）です。



**対策②**日の出2時間以降は植物の蒸散

が活発になります。日の出2時間以降に灌水を開始すると裂果低減につながります。



**対策③**曇天時や梅雨時期など、湿度が高いときに灌水が多い

と裂果します。天窗、側窓、肩、妻面換気をしましょう。

**対策④**摘芯後は、収穫段が1段減ることにおよそ15%程度ずつ、灌水量を減らしていくと良いです。葉の枚数や果実が減れば蒸散に必要な水分量も減少するためです。

(2) **同心円状裂果** 果実のがくの部分を中心に同心円状に裂果。

強日射による果皮の損傷（老化）、果皮硬度の低下により発生します。固いゴム風船は伸縮性が弱いと同じです。

**対策⑤**遮光塗布剤、遮光ネットの活用

により、幼果のうちから果皮を強日射から守りましょう。



**対策⑥**葉を大きく作り、果実を強日射に

さらされないようにしましょう。

葉を大きく作るためには遮光資材の活用とこまめな灌水が有効です。

灌水量が不足すると葉は小さくなり、茎は細くなります。



**対策⑦**摘芯をした際、最後に収穫する果房の上に葉は3~4枚

残し、更に側枝を伸ばして生長点を摘み、葉の枚数を増やすと有効です。葉が傘の役割をしてくれます。